



■館長就任のご挨拶

この度、林 正久前館長の御退職に伴い、平成26年4月1日より島根大学ミュージアムの館長を務めさせていただくことになりました。引き続きミュージアムのミッションを達成するべく、微力ながら精一杯務めてまいりますので、皆様からのご協力とご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

私の専門分野は地質学・古生物学です。平たく申し上げますと地層と化石に関する研究を行っており、総合理工学研究科地球資源環境学領域での教育・研究も行っております。島根県では、島根半島、宍道湖南岸、石見・豊ヶ浦、益田市など各地から化石が多産し、島根県の地名が種名につけられている化石や、古生物学分野で全国的に知られている化石動物群も存在します。これらの貴重で膨大な化石標本は大学ミュージアムに大切に保管され、一部は展示されております。

島根大学ミュージアムは、これまでスタッフはもちろん兼任研究員などの協力を得て、埋蔵文化財や多岐にわたる学術資料の収集・整理保管・調査研究を行い、これらを学生教育や地域社会の皆様に活用していただくため、様々な活動を行ってきました。また、昨年度から島根大学は地域の知と文化の拠点として地域貢献の役割を今まで以上に強化し、地域社会との連携活動に取り組んでおります。そこで、私は大学ミュージアムも存在感を高め、地域の皆様にも開かれた場所として、また、情報発信や学術資料の利活用の拠点としての役割を、なお一層強化する必要があると考えております。そのため、学術研究はもとより、広報活動、学内センター・島根県の博物館などとの連携活動、ミュージアム新展示室の実現などに力を注ぎ、スタッフと共に業務に努めてまいります。

最後に、大学ミュージアムの様々な取組に、御理解と御支援をこれからもなお一層賜りますようお願い申し上げます。就任の御挨拶といたします。

島根大学ミュージアム館長 入月 俊明

島根大学ミュージアム この1年（平成25年度の活動）

島根大学ミュージアムは、「人とともに・地域とともに」という本学のキャッチフレーズを具体的に実現させるために、様々な展示・イベントや調査研究・教育活動を実施しています。平成25年度の活動の一部をご紹介します。

◆企画展示「明治時代の植物標本～発見された旧制松江高等学校（島根大学前身校）の遺産～」

主催 島根大学ミュージアム・島根大学生物資源科学部生物科学科
期間 平成25年12月14日(土)～平成26年1月26日(日)の土・日・祝日
会場 サテライトミュージアム島根大学旧奥谷宿舎（松江市奥谷町140）

昨年、島根大学生物資源科学部生物科学科で、明治中期から大正初期にかけて博物学者の長野菊次郎（1868～1919年）によって収集された、国内でも最古級の植物さく葉標本1,410点あまりが発見されました。この時代は、日本植物研究の黎明期であり、当時の標本のほとんどは、旧帝国大学や国立科学博物館に保存されています。島根大学で発見された植物標本は、明治20年代以後に採集・制作され、旧制松江高校（島根大学の前身校）に収蔵されたものです。制作技術が高く、保存状態が良好なことから、学術的価値がきわめて高い貴重な資料です。この展示会では、発見された植物標本を展示し、明治時代の植物研究や旧制松江高校の植物教育について知ってもらうことを目的としました。



会場は、旧制松江高校にゆかりのある大正時代のサテライトミュージアム島根大学旧奥谷宿舎（旧制松江高校外国人宿舎）でした。



葉や花の色も残っています。台紙上に貼られた植物のレイアウトにもセンスが感じられます。

◆ミュージアム市民講座（まつえ市民大学連携講座）

毎月1回、土曜日の午後に松江市内の市民活動センター・松江スティックビルで開催しました。島根大学の様々な専門分野の教員が、教育研究成果を、分かりやすくリレー講義しました。

平成25年度は、計12回の通常の市民講座に加えて、初めて広島市内での特別講座を6回開催しました。平成26年度は、新たに大阪での特別講座開催も計画しています。

第1ステージ「山陰の古環境を探る」

主催 島根大学ミュージアム
共催 島根大学生涯教育推進センター

- ・第56回「遺跡分布からみた出雲平野の変遷」
講師：会下和宏（島根大ミュージアム副館長・准教授）
日時：平成25年5月11日（土）
- ・第57回「小さな化石を利用した景観の復元」
講師：渡邊正巳（島根大汽水域研究センター客員研究員）
日時：平成25年6月8日（土）
- ・第58回「島根県の化石探訪」
講師：入月俊明（島根大総合理工学研究科教授）
日時：平成25年7月20日（土）
- ・第59回「山陰の地で過去の津波の痕跡を探る」
講師：酒井哲弥（島根大総合理工学研究科准教授・島根大ミュージアム兼任研究員）
日時：平成25年8月10日（土）
- ・第60回「奥出雲地域のたたらと鉄穴流し景観」
講師：林 正久（島根大教育学部教授・島根大ミュージアム館長）
日時：平成25年9月28日（土）



第58回講座「島根県の化石探訪」

第2ステージ
「考古学・歴史学からみた先史・古代の出雲 IV」

主催 島根大学ミュージアム・島根大学法文学部山陰研究センター「『出雲国』成立過程における地域圏の形成と展開にかんする総合的研究」プロジェクトチーム
共催 島根大学生涯教育推進センター

- ・第61回「隠岐諸島黒耀石原産地の踏査報告」
講師：及川 稔（島根大法文学部准教授・島根大ミュージアム兼任研究員）
日時：平成25年10月26日（土）
- ・第62回「石器から鉄器へー弥生時代・山陰地域の道具の移り変わりー」
講師：会下和宏（島根大ミュージアム副館長・准教授）
日時：平成25年11月23日（土）
- ・第63回「古代製鉄の系譜ー日韓製鉄史の比較からー」
講師：角田徳幸（島根県教育委員会）
日時：平成25年12月14日（土）

- ・第64回「先史墓制からみた韓半島と出雲」
講師：平郡達哉（島根大法文学部准教授・島根大ミュージアム兼任研究員）
日時：平成25年12月21日（土）
- ・第65回「国司からみた古代の出雲国」
講師：大日方克己（島根大法文学部教授）
日時：平成26年1月25日（土）
- ・第66回「建物配置・構造からみた出雲国庁の実態」
講師：大橋泰夫（島根大法文学部教授・島根大ミュージアム兼任研究員）
日時：平成26年2月1日（土）
- ・第67回「山陰の古墳と青銅鏡」
講師：岩本 崇（島根大法文学部准教授・島根大ミュージアム兼任研究員）
日時：平成26年3月8日（土）

特別講座in広島(古代出雲文化フォーラムⅡプレ企画)
「出雲文化へのいざない
～弥生青銅器・たたら・出雲国風土記～」

主催 島根大学・島根大学ミュージアム
場所 広島市まちづくり市民交流プラザ（広島市中区袋町）

- ・第1回「出雲神話のロマンとたたら」
講師：大庭卓也（島根大総合理工学研究科教授）
日時：平成25年10月5日（土）
- ・第2回「出雲のたたら製鉄」
講師：角田徳幸（島根県教育委員会）
日時：平成25年11月2日（土）
- ・第3回「弥生時代の出雲青銅器文化」
講師：松本岩雄（島根県教育庁文化財専門官）
日時：平成25年11月30日（土）
- ・第4回「弥生時代の四隅突出型墳丘墓」
講師：会下和宏（島根大ミュージアム副館長・准教授）
日時：平成25年12月7日（土）
- ・第5回「考古学からみた出雲国風土記」
講師：大橋泰夫（島根大法文学部教授）
日時：平成26年1月11日（土）
- ・第6回「中国山地の暮らしと文化ーたたらー」
講師：島津邦弘（元中国新聞編集局次長・元比治山大学教授）
日時：平成26年2月8日（土）



第5回特別講座in広島「考古学からみた出雲国風土記」

◆第9回島根まるごとミュージアム体験ツアー 「ローカル鉄道『三江線』で巡る江の川流域の自然・ 歴史・芸術遺産」

講師 会下和宏（島根大学ミュージアム准教授）

日時 平成25年5月18日（土）

「三江線」は、美しい景観をつくる江の川に沿って走るローカル鉄道です。今回のツアーでは、バスと三江線で、江津市桜江町の今井美術館や歴史的景観が残る江津本町などを訪ね、江の川流域の自然・歴史・芸術を学びました。



第9回島根まるごとミュージアム体験ツアー「ローカル鉄道『三江線』で巡る江の川流域の自然・歴史・芸術遺産」

◆子どもミュージアム体験教室 「動かして学ぼう！太陽電池の不思議 ～ラジコンカーを太陽電池で動かそう！～」

講師 葉 文昌（島根大学大学院総合理工学研究科
機械・電気電子工学領域 准教授）

日時 平成25年5月11日（土）

児童に関心が高い太陽電池を使用した工作を行いました。参加申込みが殺到したため、参加親子を100名（50組）に拡大して開催しました。



子どもミュージアム体験教室「動かして学ぼう！太陽電池の不思議～ラジコンカーを太陽電池で動かそう！～」

◆学芸員養成課程（新カリキュラム）の開講

教養課程・学芸員養成課程の授業を開講しています。

島根大学では、法文学部・総合理工学部・生物資源科学部の3学部で学芸員資格を取得することができます。法律改正によって、平成24年度から学芸員資格取得に必要な授業が大幅に増加しました。平成25年度から新カリキュラムの本格的な開講が始まり、約100名の学生が資格取得に向けて頑張っています。

授業では、ミュージアム所蔵資料や展示室も活用して実践的な教育を行っています。



学生が制作した解説パネルと展示（ミュージアム本館展示室）

◆出雲キャンパスから弥生土器が大量に出土！

島根大学ミュージアムでは、「文化財保護法」に準拠して、大学構内に残る埋蔵文化財の保護活動を行っています。平成26年3月、出雲キャンパスでの小規模な工事に先立って、発掘調査を行ったところ、地表下約3mの砂層から大量の弥生土器が発見されました。出雲キャンパスで大型の破片がこれ程多量に見つかるのは初めてです。

見つかった弥生土器は、河川の洪水によって、すぐ近くから流されてきたものと考えられます。作られた時期は、弥生中期後葉から後期後葉頃（およそ紀元前1世紀後半から紀元2世紀後半頃）を中心とするものです。荒神谷遺跡（出雲市斐川町）に銅鐸が埋められたり、四隅突出型墳丘墓の西谷墳墓群（出雲市大津町）が造営されたりした時期とも重なります。どうやら、この時期、出雲キャンパス内の野球場・テニスコート一帯や隣接地に大規模なムラがあったようです。



出土した弥生土器の一部

モノを楽しむ ～明治以来の学び舎に残された島大コレクションの数々～

総合大学である島根大学では、これまでの教育研究活動によって様々な標本資料が収集されてきました。資料の収集やそれらの研究は、現在進行形で行われています。今回は、最近新たな研究成果が得られた資料をご紹介します。

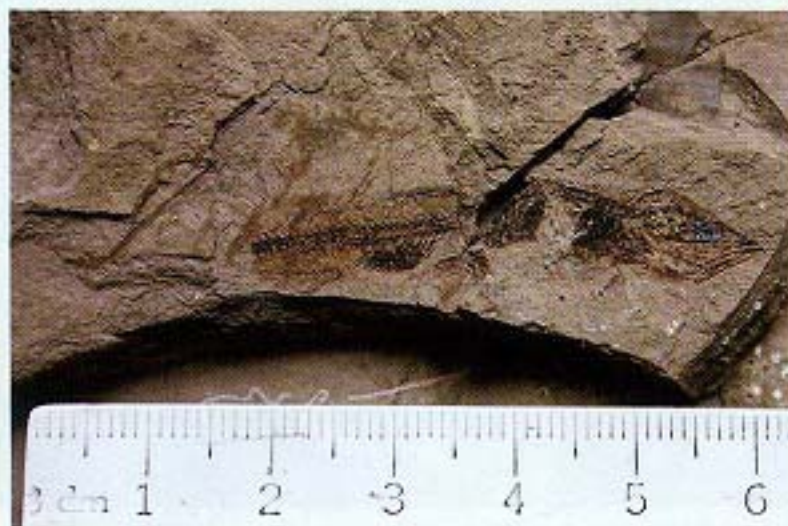


ヒゲクジラ右下顎骨
(手前が顎の前方、松江市乃白町出土、約1,300万年前)

この化石は、現ミュージアム館長と研究室の学生が、松江市乃白町の忌部川河床で、2年前に発掘し、クリーニングしたヒゲクジラの右の下顎の骨化石です。

布志名層という1,300万年前頃の地層から見つかりました。長さは122cmもあり、大変大きな化石です。

当時、松江は大きなクジラが泳ぐほどの海であったことが分かります。



世界最古(約1,000万年前)のアユ化石
(島根大学総合理工学研究科 所蔵)

この化石は、約40年前、当時の島根大学文理学部学生が、松江市馬潟にある約1,000万年前頃の「松江層」から発掘したものです。2年ほど前、鶴見大学歯学部の小寺春人講師と国立科学博物館の友田淑郎元主任研究員が丁寧にクリーニングをして、電子顕微鏡による観察をおこなったところ、櫛のような形状の歯をもつことなどからアユであることが分かりました。これまでアユは、第四紀の始まり(約260万年前)とともに出現したと考えられてきました。しかし、今回の発見によって、1,000万年も前からアユがいたということが判明した貴重な発見となりました。

トピックス ～地下に眠る旧制松江高校～

平成26年4月、本部棟改修工事に伴って行った発掘調査で出土した、旧制松江高校本館の煉瓦基礎をミュージアム本館横のスペースに移築保存しました。

旧制松江高校は、全国で17番目に設立された旧制高校で、島根大学の前身校になります。旧制松江高校の校舎本館は、大正10(1921)年12月20日に竣工した優美な木造2階建てで、昭和40年代まで島根大学の校舎として使用されていました。煉瓦造りの基礎は建築史的な価値をもつだけでなく、わが校の歴史を物語る貴重な資料です。

これから解説パネルを立てるなどして、分かりやすく屋外展示していく予定です。



移築された煉瓦基礎



建造時の旧制松江高校本館 1921(大正10)年12月10日撮影
現在の島根大学松江キャンパス南西隅

■発行日 2014年7月30日

■編集・発行 島根大学ミュージアム Shimane University Museum

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 TEL/FAX 0852-32-6496

ホームページ <http://museum.shimane-u.ac.jp/> E-mail: museum@riko.shimane-u.ac.jp

